

北上川の背水が被害を大きくしている？

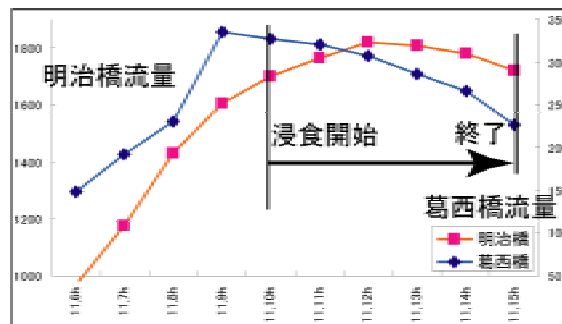
台風6号の際の左岸堤防浸食は、築川の流量ピーク（AM9時）が過ぎた午前10時から始まっています。

目撃者によると、堤防は午前10時頃に亀裂が入り、堤防の奥まった箇所では11時ころから崩落が始まった。（中略）崩落は上流川から築川橋のたもとにかけて次々広がり、1時間ほどで残された道路幅は3分の1ほどになった。午後3時頃には最も削られた箇所では50センチを残すほどになった。
H14/7/12 盛岡タイムスより



堤防浸食は、明治橋流量の上昇と合わせて始まりピークが過ぎた頃に終了しています。

また、浸食地点の横断図から堤防浸食時の流量を算出しよう



としたところ、葛西橋地点（875m）最大流量 335m³/s と被害地点の水位が矛盾します。

このことから、築川下流の水害には北上川の増水が大きく関与しているものと思われます。

計画水位も 335m³/s をはるかに上回っています。

下の図は、堤防浸食があった地点の災害復旧工事の図面ですが、台風6号の災害水位を 335m³/s と見た場合、計画水位はダム事務局が説明する 340m³/s を上回っています。

これは、下流域の計画には北上川からの増水分をあらかじめ見込んでいたためでしょうか？

最下流部も流下能力 800m³/s を活かした治水対策が必要であり、可能であることを示しています。

一方、築川上流からの流量を調節したところで、北上川の状況如何では水害の発生は起こりうる可能性があることも示唆し、ダム建設が適切な治水対策であるか疑問を投げかけます。

（岩手県築川災害復旧工事図面より）

